群馬県

通級による指導

リーフレット Ver.01

「通級による指導」ってなんだろう？

「通級による指導」とは、大部分の授業を小・中・高等学校の通常の学級で受けながら、一部、障害に応じた特別の指導を特別な場（通級指導教室）で受ける指導の形態で、「自立活動」の指導を行います。自立活動とは、一人一人の児童生徒の実態に応じて設定された内容に基づき、よりよく生きていくことを目指した主体的な取組を促す教育活動です。

だれが受けられるんだろう？

通級による指導の対象となるのは、言語障害、自閉症、情緒障害、弱視、難聴、LD、ADHD、肢体不自由、病弱及び身体虚弱の児童生徒であり、通常の学級の学習におおむね参加でき、一部特別の指導を必要とする程度のものになります。（通常の学級に在籍するもの）

いつ・どこで受けられるんだろう？

通級による指導は、自分が通う学校や、他の学校など、通級指導教室が設置されているところで受けられます。時間帯は、授業時間内の場合と、放課後等の場合があります。高校通級の場合は、サテライト学習室（在籍校を含む）で、定時制や通信制における始業前の時間帯や、全日制における放課後の時間帯に受けられます。

小・中学校における通級による指導

お問合せ
お申込み

まずは在籍する学校の担任へご相談ください

学校の先生が窓口となり、必要な情報をお伝えします。最終的には、各市町村教育委員会が、入級判断や入級に必要な手続きを行います。

設置者　各市町村教育委員会

高等学校における通級による指導

お問合せ
お申込み

まずは在籍する高等学校の担任へご相談ください

平成30年度に制度を開始しました。県立高校に在籍する生徒を対象とし、サテライト方式を採用しています。申込み後、担当者が、初回面談や入級判定を行います。

設置者　群馬県教育委員会
（高校教育課・特別支援教育課）

群馬県は、小・中・高等学校における切れ目ない支援体制を目指しています。

■ 参考データ ■
群馬県における「通級による指導」利用人数
（令和元年５月１日時点：暫定値）
小学校：3183名、中学校：287名、高等学校：20名

○自立活動○　小学校通級における指導の例（抜粋）

図１　迷路に取り組む

図２　点つなぎに取り組む

図３　身近な文字を読む

図４　自分で選んだ活動に取り組む

１年生のＡさんは、保育園在籍時より、興味を持つことのできない活動を行う際に大きな声で泣く、思い通りにならないと寝転んで大きな声を出すなどの様子が見られ、小学校入学後、読み書きの学習が本格的に始まると、登校時や宿題を行う際に大声で叫ぶ、泣く、暴れるなどの姿が顕著になりました。そこで、詳しい実態把握と分析後、自立活動の目標を「伝えたいことを自分なりの方法で相手に伝わるように表すことができる」として、『迷路』（図１）『点つなぎ』（図２）『身近な文字を読む』（図３）『自己選択・自分から発信する』（図４）等の活動を設定しました。在籍校や保護者との連携を大切にして取り組んだ結果、自分の思い（やりたいこと、やりたくないこと等）を言葉で伝える場面が増えました。そのほか、意欲をもって課題に取り組む姿や、覚えた平仮名を大きな声で読む姿が増えました。在籍校のテストでは、文字情報だけではなく、図や表などの情報から読み取って、諦めずに解答する姿が見られるようになってきました。

○自立活動○　中学校通級における指導の例（抜粋）

３年生のＢさんは、学習に対する意欲をもちづらく、授業中は机に伏せている姿が多く見られました。自分の考えを上手く言葉で説明できず、友達とトラブルになることもありました。そこで、詳しい実態把握と分析後、自立活動の目標を「学習意欲をもち、他者とのコミュニケーションを円滑にできるようにするために、語彙を増やし、考えを整理して表現ができるようにする」と設定し、『クロスワードパズル』（図１）『学校生活の振り返り』（図２）『ジオボードを用いた漢字の形作り』（図３）等の活動に取り組みました。当初、机に伏せてしまう理由として「難しい言葉を聞くと脳が拒否してしまう」と話していましたが、１対１の対話形式で指導を続けていくうちに、分からない言葉を進んで理解しようとする姿が見られるようになりました。在籍校でも、机に伏せる回数が少なくなり、数学の先生に√（ルート）について自分から質問する姿も見られたそうです。作文に、「自分で変わったと感じたことは、相手に伝わりやすいように言葉の順番や組み立てを考えて話すようになってきたことです。」と感想を述べており、言葉のやりとりに自信をもてるようになった様子が見られます。

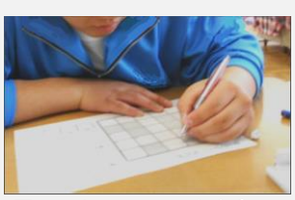
図１　クロスワードパズル

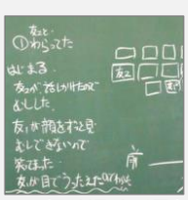
図２　振り返り（黒板）

図３　ジオボードを用いた漢字の形作り

○自立活動○　高校通級における指導の例（抜粋）

３年生のＣさんは、友達の気持ちやその場の状況を察することが難しく、マンガに出てくる過激なセリフをそのまま遣って相手を不快にさせたり、気になる友達に執着し、後を追ってしまったりして、周りとのトラブルが絶えませんでした。また、常に無表情で、無言のまま職員室に入って鍵を取って行ってしまうなどの姿が見られました。本人は注意される度に反省するのですが、具体的な行動モデルがなく、理解できていないようでした。２年生で入級後、自己理解やコミュニケーションに関する様々な学習に取り組み、３年生でも継続しました。自立活動の目標を「集団生活のルールやマナーを理解し、周りと協力して学校生活を送ることができる」と設定。活動の流れを『健康観察』『フリートーク』『素敵な大人になるプロジェクト』『お楽しみ活動』『次回の予定』等と決め、見通しを持たせながら進めました。『素敵な大人になるプロジェクト』では、ワークシートを用いて高校生活や家庭生活を振り返ったり、知らない言葉や思い込んでいる誤った考えを１つ１つ確認したりしました。また、自己理解を促すために、手作り教材のプリントを利用したり（図１）、表情と気持ちの関係を考える活動に取り組んだり（図２）しました。鏡や動画を利用して、自分の表情に注目させ、表情によって、周りの人の受け取り方が変わることも確認しました。

その結果、Ｃさんは、笑顔で挨拶をしたり、分からないことを質問したりするなど、次第に場面や相手に合った行動を取ることができるようになり、インターンシップでお世話になった会社の方に「ぜひアルバイトに来てほしい」とスカウトされるほど、本人の良さが表れるようになりました。

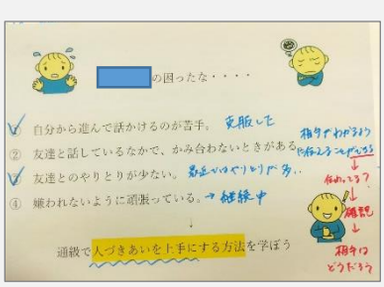

図１　自分の「困った」を整理して、解決する方法を学ぼう

図２　表情と気持ちの関係